

河北潟湖岸外周部におけるネズミ類調査報告

川原奈苗・大串龍一

河北潟湖沼研究所

〒920-0051 石川県金沢市二口町八58

要約: ここ20数年の間、河北潟干拓地においては、ネズミ類やモグラ類、その天敵イタチなどの調査が広くおこなわれてきた。しかし干拓地周辺の調査はおこなわれておらず、これらの小型哺乳類の生息状況は全くわかっていない。これを補うために2002年から2004年の冬季に、河北潟調整池および承水路の外側の堤防およびその周辺において、ネズミ調査のトラップを用いて調査をおこなった。その結果、ハツカネズミ、アカネズミ、ドブネズミの生息が確認された。

キーワード：河北潟，外周部湖岸，ネズミ類，トラップ調査

はじめに

調査地である河北潟は、湖盆面積605ha（東部承水路を含む）の石川県内最大の湖で、能登半島の付け根に位置する。潟湖周辺には水田がひろがり、1970年に干陸化した1359haの河北潟干拓地では畑作、酪農が営まれ、平地に生息するネズミ類の生息環境は広く存在する。河北潟のネズミ類の生息状況については、干拓地内部において1976年から詳しい調査がおこなわれており、ハタネズミ *Microtus montebelli montebelli*、アカネズミ *Apodemus speciosus speciosus*、ハツカネズミ *Mus musculus molossinus*、クマネズミ *Rattus rattus*、ドブネズミ *Rattus norvegicus*、またモグラ目トガリネズミ科のジネズミ *Crocidura dsinezumi* が確認されている（大串 2003）。一方、これまでに干拓地周辺におけるネズミ類の生息状況については報告されていない。2002年から2004年の冬季にこの外周部において捕獲調査をおこなったので、その結果を報告する。

調査地点

調査地は、河北潟の湖岸外周部に点在するよ

うに地点を配置し、2002年には10地点、2003年には1地点、2004年には5地点で調査をおこなった（図1）。捕獲地点はおもに湖岸堤防や河口のヨシ帯など人のあまり入らない放置された環境を選んだ（表1）。

調査時期と調査方法

現地調査は以下の日に実施した。

2002年 11月20日 - 22日、26日 - 27日、30日 - 12月1日、2003年3月14日 - 15日、2004年2月24日 - 26日。

各調査地点には合計20個のトラップ（シャーマントラップ10個、かご罠10個）を用いた。トラップはネズミが入るような場所に設置して一晩おき、翌朝にトラップにかかった種類を確認した。2002年は各地点に一晩設置し、2003年、2004年は二晩つづけて設置した。トラップに仕掛ける餌には、2002年はクルミとさつま揚げを、2003年はクルミとさつま揚げとじゃがいもを、2004年はクルミとさつま揚げと落花生を用いた。

調査は2002年には、11月20日に4地点（A～D）、11月21日に4地点（E～H）の計8地点で実施した。この調査では天候が崩れたこともあり



図1．河北潟周辺におけるネズミ類の調査地点．調査地点は潟湖周囲に設け、3年間の調査で11カ所にトラップを設置した．

捕獲率が悪かったため、11月26日に2地点(AA, B), 11月30日に1地点(I)で補足調査をおこなった．2003年は、3月14日に1地点(B)でのみおこなった．2004年は、2月24日に5地点(C, F, G, I, J)で実施した．

調査結果と考察

この5回の調査の結果、3種のネズミが捕獲された．

アカネズミ	5個体
ハツカネズミ	7個体
ドブネズミ	4個体

2002年の調査ではアカネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミが捕獲された(表2)．アカネズミは、地点Cの低茎草地に仕掛けたシャーマントラップに1個体、地点Fの河口の堤防の土手

に設置したシャーマントラップに1個体、地点Gの河口近くの堤防の低茎の草地に設置したシャーマントラップに1個体の計3地点で捕獲された．ドブネズミは、地点Eのヒメガマやヨシが生育する水際に設置したかご罠に1個体、地点Hのヨシの生育する水路沿いに設置したかご罠に1個体、地点Iのヨシの生育する水辺に設置したかご罠に2個体の計3地点で捕獲された．ハツカネズミは、地点AAの河口近くの堤防の低茎の草地に設置したシャーマントラップに1個体、かご罠に1個体、地点Bのヨシやオギの群落がある河口に設置したシャーマントラップに1個体、地点Hのヨシヤヒメムカシヨモギが生育する道沿いに設置したシャーマントラップに2個体、地点Iのヨシの生育する水辺に設置したシャーマントラップに1個体の計4地点で捕獲された．

2003年の調査ではネズミ類は確認されなかった．

表1. トラップの設置地点の環境.

地点	トラップ設置箇所の環境
A	堤防と高水敷に設置. 水辺は蛇籠護岸. 水門付近の一部が裸地で, ススキやオギ, セイタカアワダチソウなどの高茎草本群落を広範囲をしめる.
A A	堤防と堤内地の水路沿いと農道沿いに設置. 堤防法面や水路沿いなどはヨシやオギ, セイタカアワダチソウなどの高茎草本群落. 堤防上や農道沿いは低茎草地.
B	河口域の土砂が堆積した水辺と堤防周辺に設置. ヤナギ類やハンノキ, ヨシ, オギ, ススキが生育.
C	野鳥観察舎周辺の藪地に設置. ヤナギ, ヨシ, ノイバラが生育. 観察舎下は低茎草地.
D	柳瀬川つつみ公園内の川沿いに設置. 植木の疎林下の低茎草地. 川沿いはヨシやセイタカアワダチソウ, オギが生育.
E	宇ノ気水辺公園の水際近くや水路沿いに設置. 広範囲が低茎草本地. 水辺にはヨシやヒメガマが生育.
F	河口域の土砂が堆積した水辺と堤防に設置. ヨシやセイタカアワダチソウ, ヤナギが生育. 堤防は低茎草地.
G	河口域の堤防法面および堤内地の水路周辺に設置. 堤防上や法面の一部は低茎草地. 道沿いはヨシやクズが生育. 水路沿いはヨシが生育.
H	湖岸沿いの道路脇と排水路周辺に設置. 水路沿いはヨシが生育. 道路沿いはサクランボ並木, ヨシやヒメムカシヨモギが生育.
I	こなん水辺公園内のひろい範囲に設置. 池の水辺や田んぼ, あぜ道, 水路沿い, クロマツの疎林下など. 水辺はヨシが生育.
J	河川敷の堤防の土手と水辺に設置. ヨシ, ススキ, クズ, セイタカアワダチソウ, ヤナギが生育. 堤防上は低茎草本.

2004年の調査ではアカネズミ, ハツカネズミが捕獲された(表3). アカネズミは, 地点Fの河口の堤防の土手に設置したシャーマントラップに2個体が捕獲された. ハツカネズミは地点Jの川沿いのヨシの生育する堤防に設置したかご罠に1個体が捕獲された.

現在までの結果をみれば, 河北潟の外周部における野ネズミ類の生息密度は, 干拓地内に比べていくらか低いようにも思われる. しかし調査時期や頻度が不十分なために, 確実とは言えない. 河北潟干拓地内の野ネズミ類の重要な天

敵であるチュウヒ, ノスリ, アオサギなどの捕食性鳥類にとっては, 干拓地外も餌場として重要な意味をもっている. 農業と野生生物を含む河北潟の自然の総合的な考察のためには, 干拓地外の湖水周辺部の野ネズミの種類と密度を把握することも必要と考えて, この調査をおこなっている.

ここに報告した3年間の冬季調査では, 調査時の降雨雪や強風などの悪天候やトラップの設置場所の条件(冬季で草丈が低く, 開放的な場所が多いことなど)が影響したのか, ネズミ類

表2. 2002年に確認されたネズミ類.

和名	St. AA	St. B	St. C	St. E	St. F	St. G	St. H	St. I
アカネズミ	0	0	1	0	1	1	0	0
ドブネズミ	0	0	0	1	0	0	1	1?1
ハツカネズミ	1 1	1	0	0	0	0	1 1	1

*St. A, St. Dでは捕獲されなかった.

表3. 2004年に確認されたネズミ類.

和名	St. F	St. J
アカネズミ	1 1	0
ハツカネズミ	0	1

*St. C, St. G, St. Iでは捕獲されなかった.

の捕獲率が低く, 十分な結果が得られなかった. とくに農作物を害することが多いハタネズミが採集されなかったが, 採集方法を検討して今後さらに調査を繰り返す必要があると考えられる.

引用文献

大串龍一. 2003. 河北潟干拓地における小型哺乳類の生息状況(2001-02)概況. 河北潟総合研究. 6: 1-9